読者ふれあいページ

「こちら虹」は楽しかったこと、感動したこと、
ことをつづってください。「お助け倶楽部」は暮らし
るアイデアやお知恵をお寄せください。紙上匿名で
電話番号を明記ください。

観音様と〝こだま〟する

出雲市斐川町・仁照寺住職
江角 弘道

観音様は、より詳しくは大慈大悲観世音菩薩と呼ばれていて、私たち衆生に大きな慈悲を施してくださいます。慈はうれしいことを共に喜ぶことであり、悲は相手が苦しい時に一緒になって苦しむことなのです。ドイツのことわざには「悲しい時に共に悲しんでくれる人がいると悲しみは半分になる。うれしい時に共に喜んでくれる人がいると喜びは倍になる」があります。この「人」こそ観音様と考えられます。

この観音様の働きは、なにか〝こだま〟に似ています。童謡詩人の金子みすゞに〝こだま〟の詩があります。

こだまでしょうか（金子みすゞ作）

「遊ぼう」っていうと「遊ぼう」っていう。「馬鹿」っていうと「馬鹿」っていう。「もう遊ばない」っていうと繰り返し、〝こだま〟しのです。

と「遊ばない」っていう。〝こだま〟は、自分が発てくれ、こころに添ってくそうして、あとでさみしくなって、「ごめんね」っていうと「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、いいえ、誰でも。

幼き日に、転んで頭を打って痛くて泣いていた時、「痛い」といったら、「痛いね」といってくれる、お母さんやおばあさんがいました。痛い時に「痛いね」といってくれたおかげで、私の痛さは半分になったのです。さらに、「痛いね、痛いね、かわいそうだね」と共感したいと考えて、拙い詩を作りました。

おかげさまの合掌（江角弘道作）

混迷・生きる 教えの庭から

挿絵 MASAKI

皆解脱を得しむ」とあります。だから、「南無観世音と一心に名を称えることは、観音様と〝こだま〟することではないかと考えられます。観音様を念ずることは、観音様に何かを祈ったり願ったりすること以上に、〝こだま〟することなんかすように発すれば、自分も生かされるということになります。「相手を生かすことによって、自分も生かされる」という世界が、実は「おかげさま」の世界なのです。仏教はそこを目指しています。

「おかげさま」ということは、「この世の中に自分の手柄であるものはなにもない」ということです。私たちが生きているということは、まず空気がないと生きていけません。水がないと生きていけません。太陽の熱や光がないと生きてゆけません。それは、自分の手柄でどうにかするものではありません。空気のおかげ、水のおかげ、太陽のおかげです。生きていることは、「おかげさま」なのです。究極的には、「いのちの根源」あるいは「如来さま」のおかげであります。

「おかげさま」を檀家さん

おかげさまです人生は 大事にしようよ この命 みんなで幸せの 両手を合わそう。

この世に生まれた幸せを この世に生まれた幸せを 明るく楽しく 生きようよ。

悲しいときには 共に泣き 嬉しいときには 分けあって みんなで感謝の 両手を合わそう。 手をとり仲良く 生きようよ 手をとり仲良く 生きようよ おかげ感謝で 生きようよ。

この世に生まれた 幸せは あわせた両手の中にある。みんなでおかげの 両手を合わそう。 互いにうやまい 助け合い 互いにうやまい 助け合い 越えてゆこうよ あの世まで。

この詩は、施餓鬼法要の後で、檀家の皆さんと大正琴の伴奏で合唱しています。